

J-PCIレジストリー2022集計結果

香坂 俊

日本心血管インターベンション治療学会 COI 開示



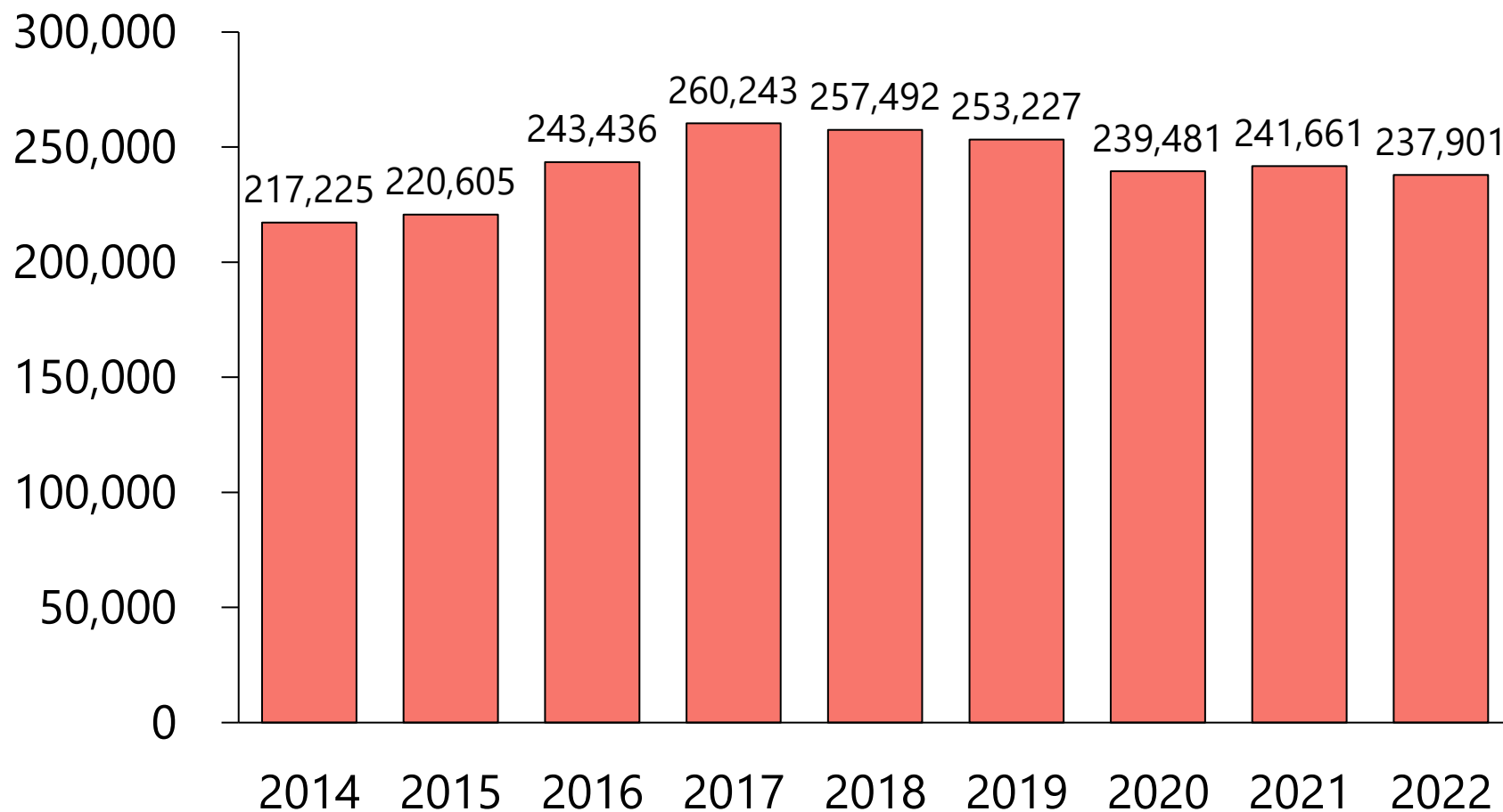
CVIT

筆頭発表者名： 香坂 俊

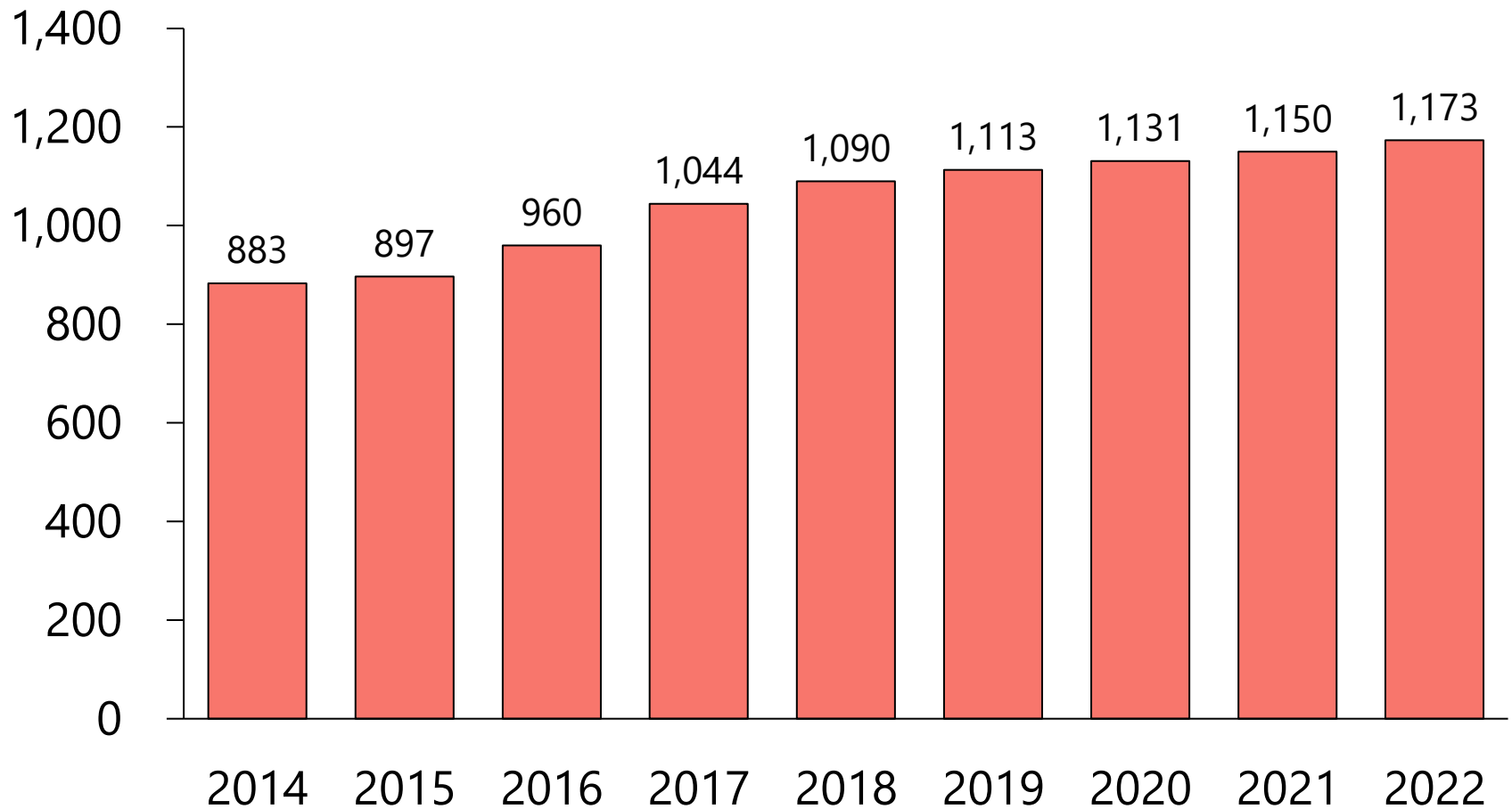
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

J-PCI登録データ数

合計 2,171,271件



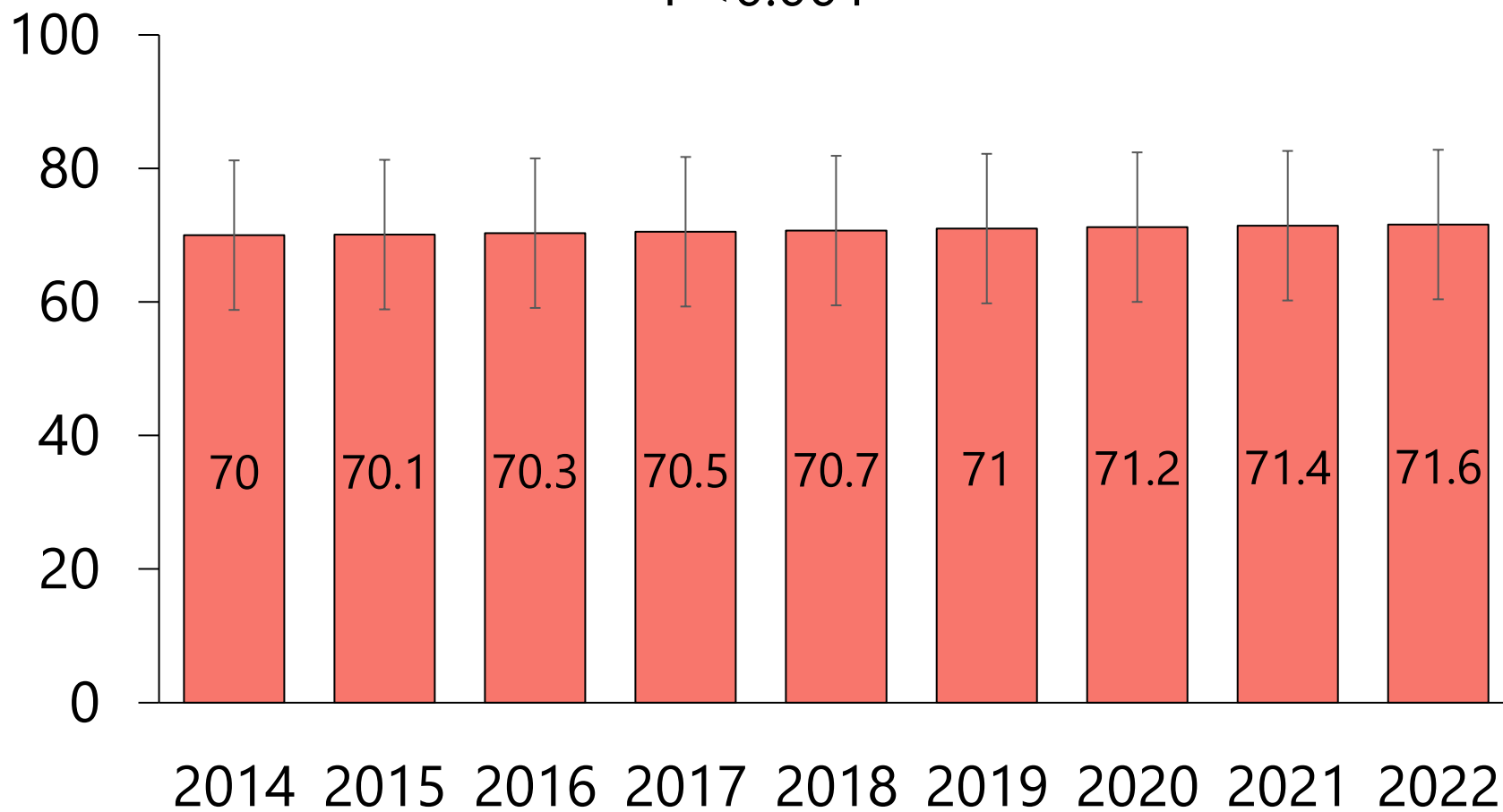
J-PCI登録施設数



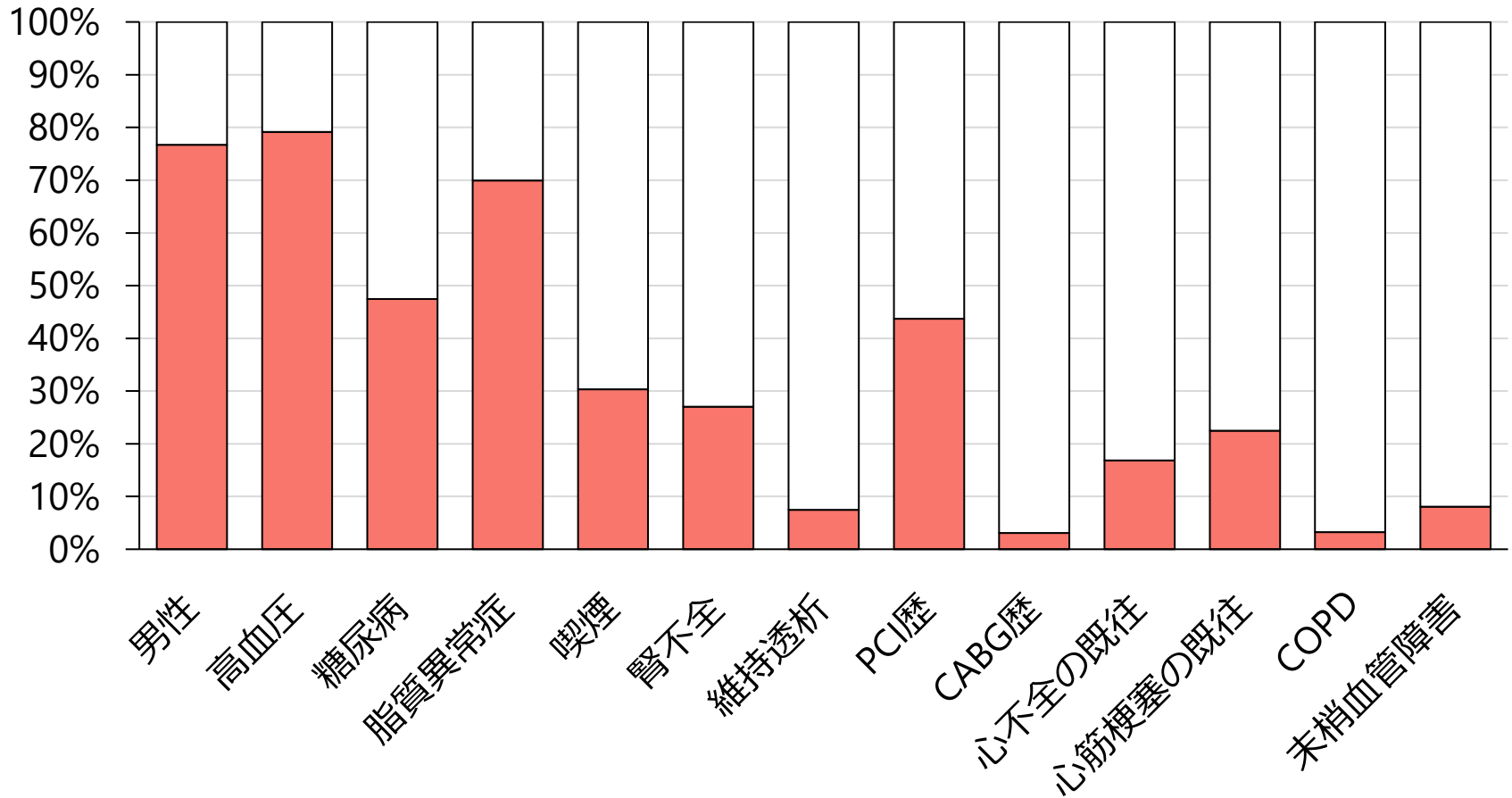
期間中に1件でも登録した施設数

平均年齢

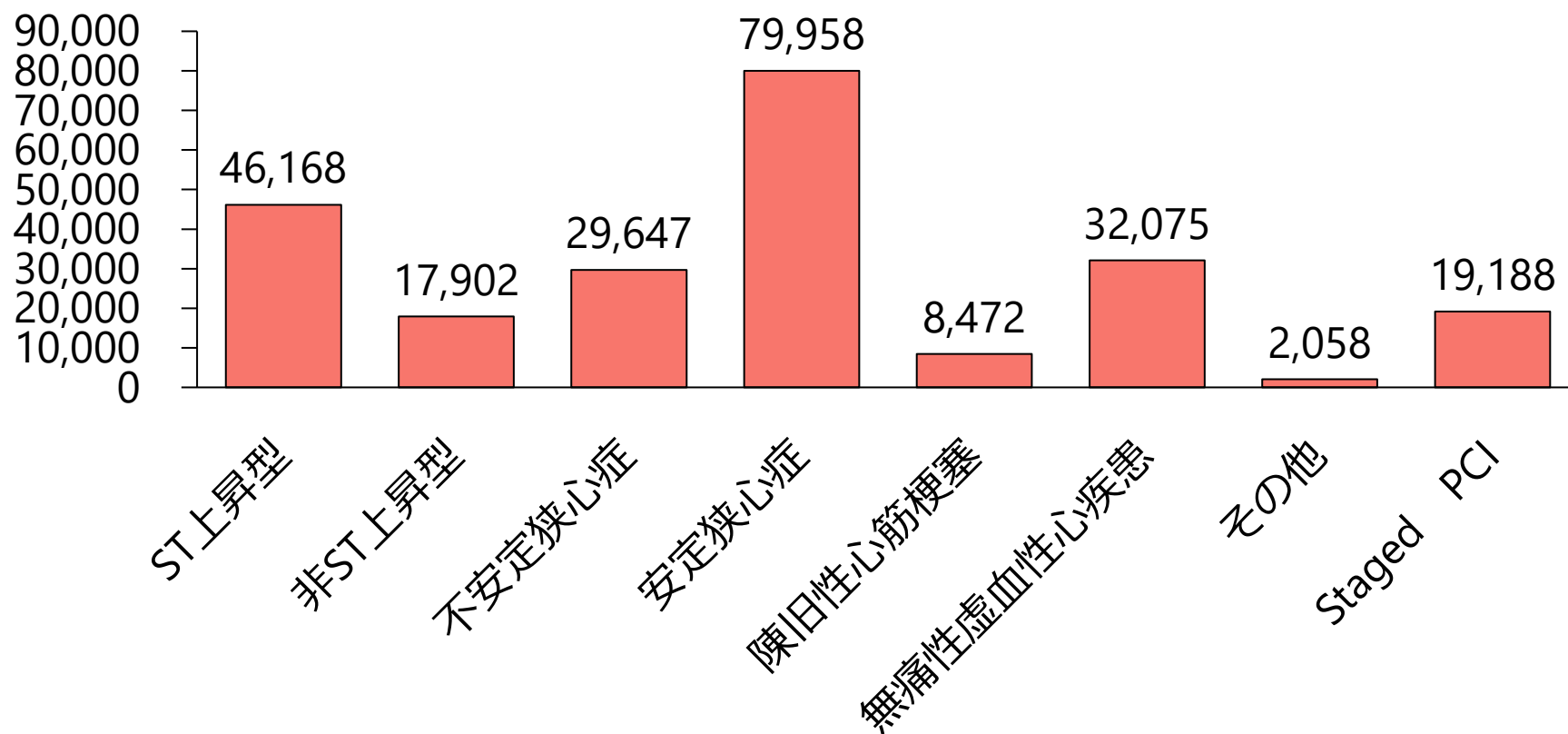
$P < 0.001$



リスク因子

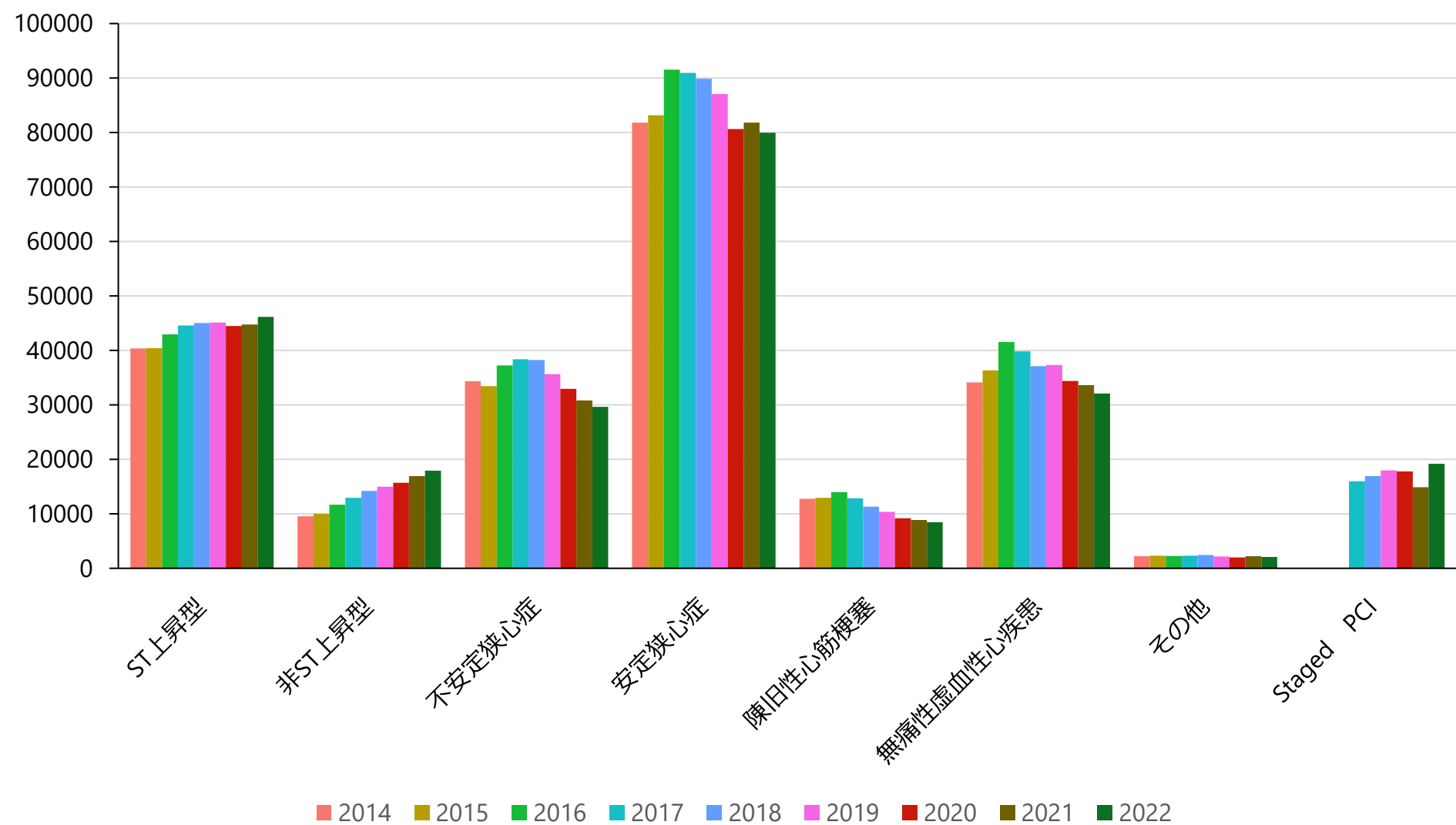


診断名

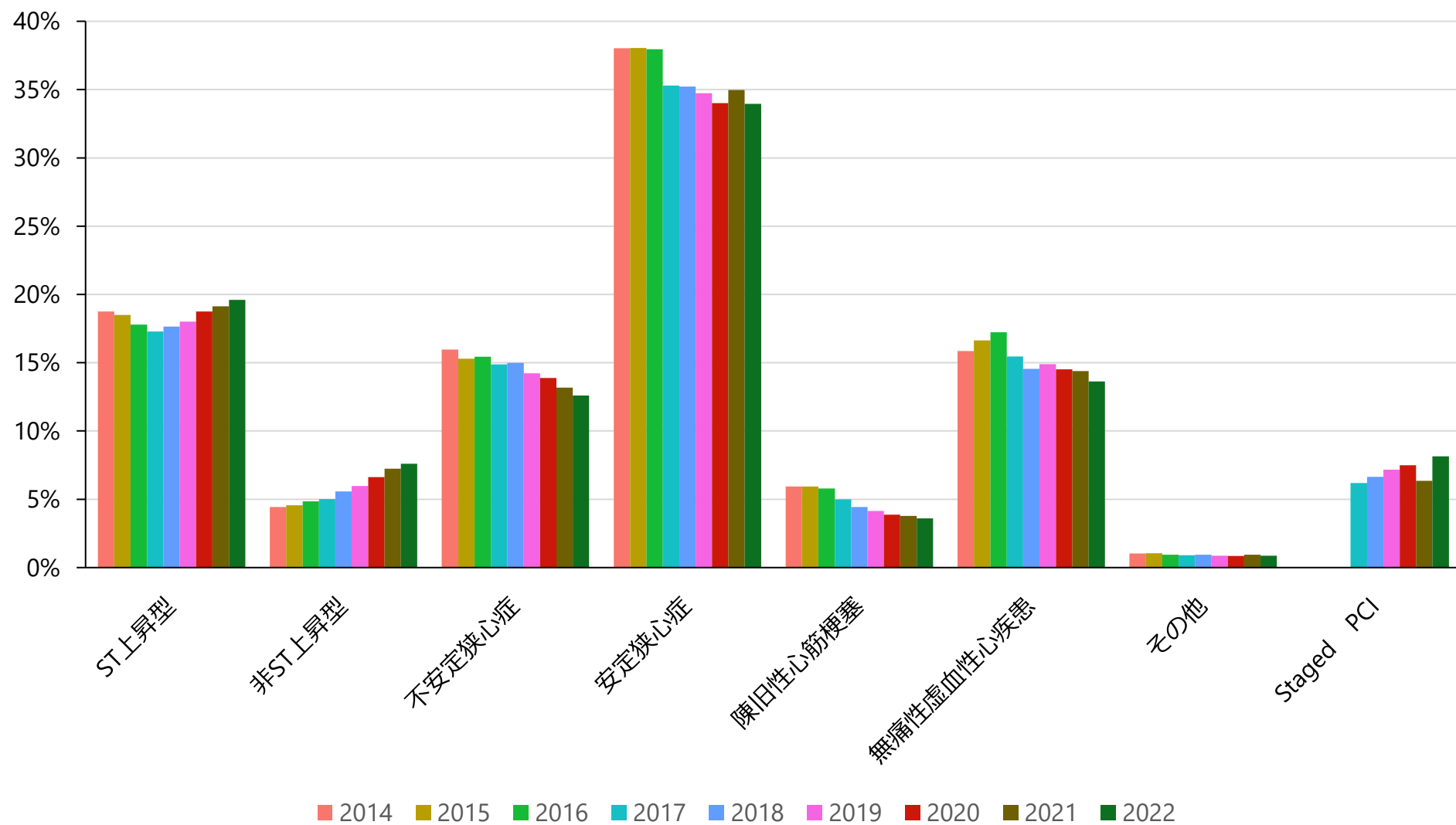


急性心筋梗塞のうちST変化不明の症例は非ST上昇型に分類

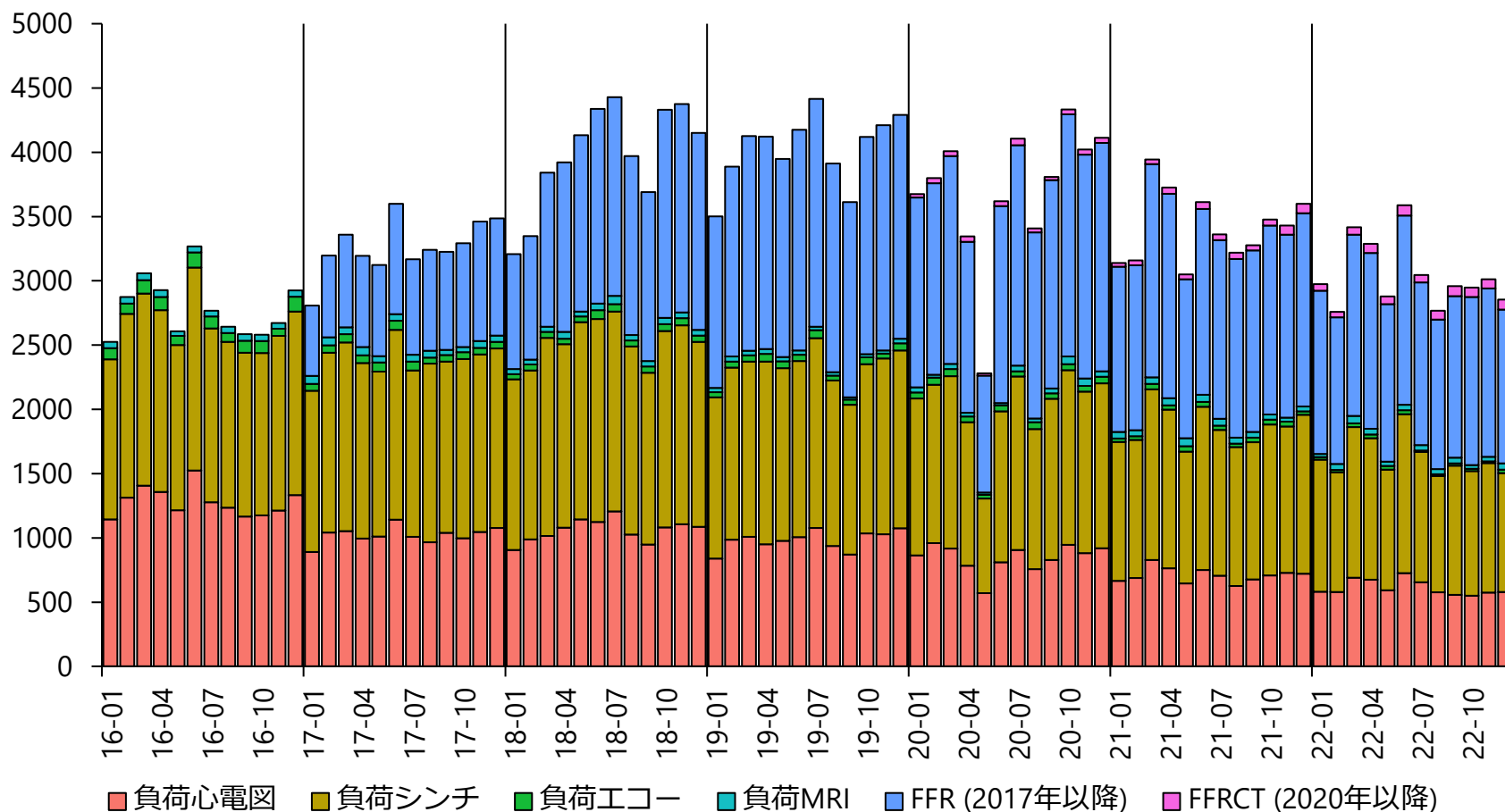
診断名 (症例数)



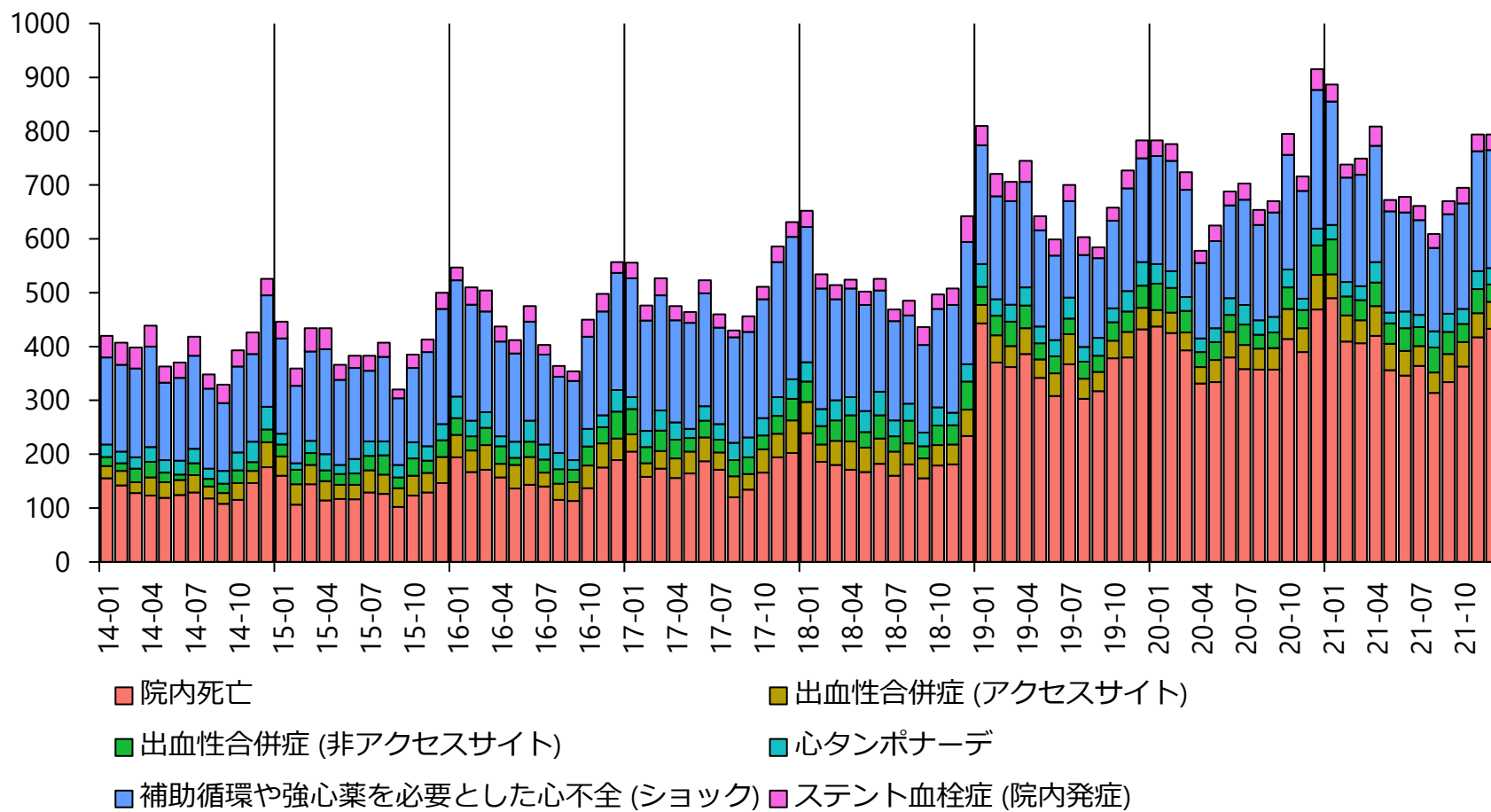
診断名 (%)



術前の画像・負荷検査の内訳



合併症



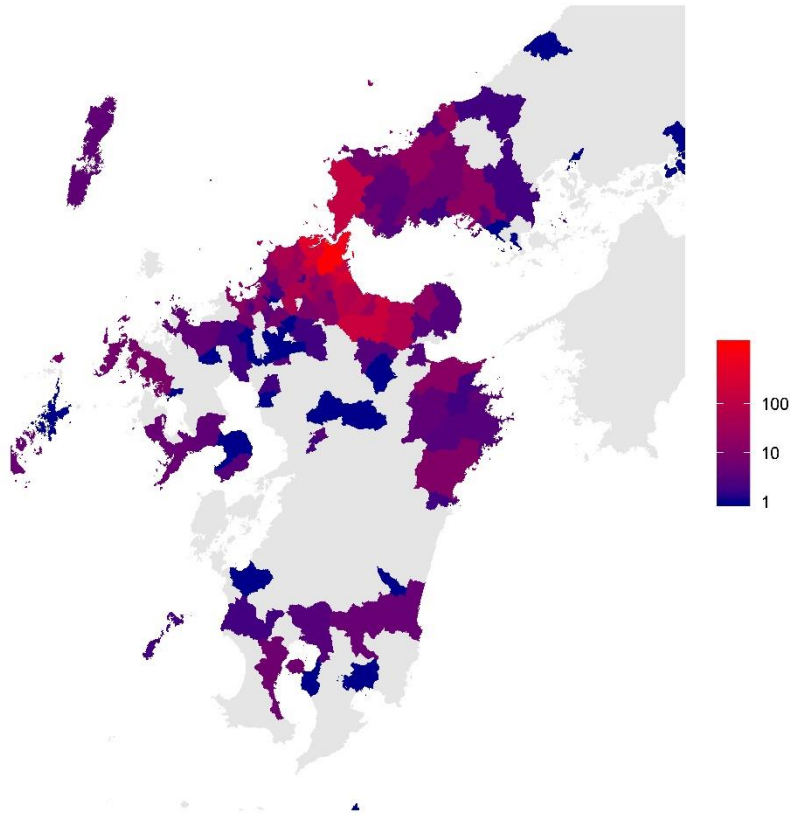
合併症

2022年 N=237,901

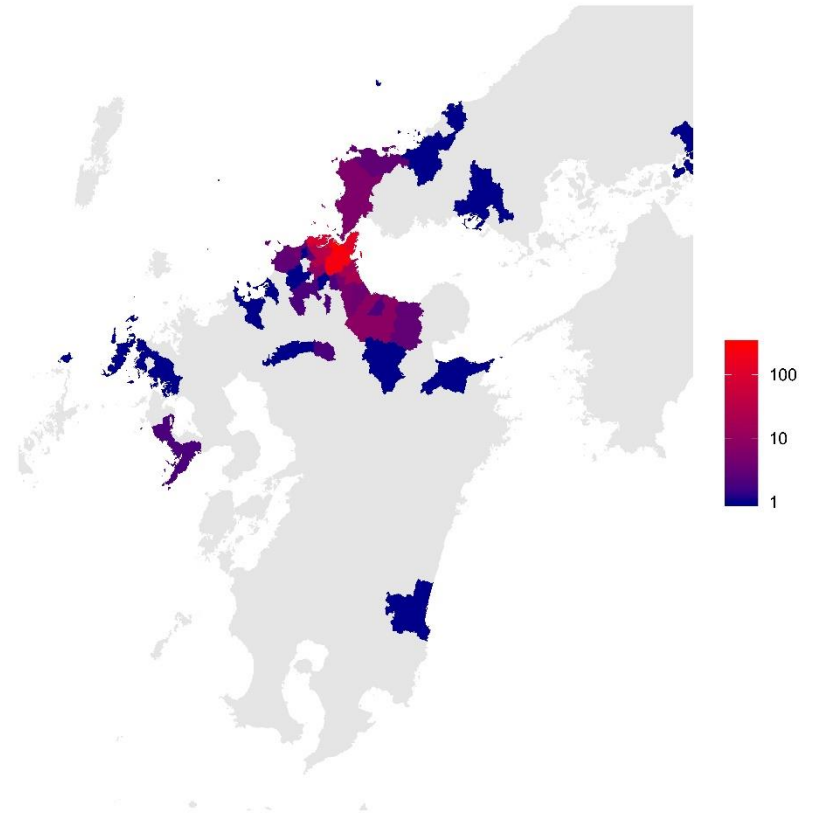
合併症	発生頻度
院内死亡	5031 (2.1%)
PCI手技による心筋梗塞	1586 (0.7%)
心タンポナーデ	346 (0.1%)
補助循環や強心薬を必要とした心不全、ショック	2291 (1.0%)
ステント血栓症 (院内発症)	328 (0.1%)
緊急手術	180 (0.08%)
輸血を必要とする出血性合併症 (アクセスサイト)	527 (0.2%)
輸血を必要とする出血性合併症 (非アクセスサイト)	415 (0.2%)
その他	1677 (0.7%)

GEOGRAPHIC DISTRIBUTION 2014-2017

Entire cases (N=7525)



MI cases (N=1063, 14.1%)



THANK YOU FOR YOUR ATTENTION!

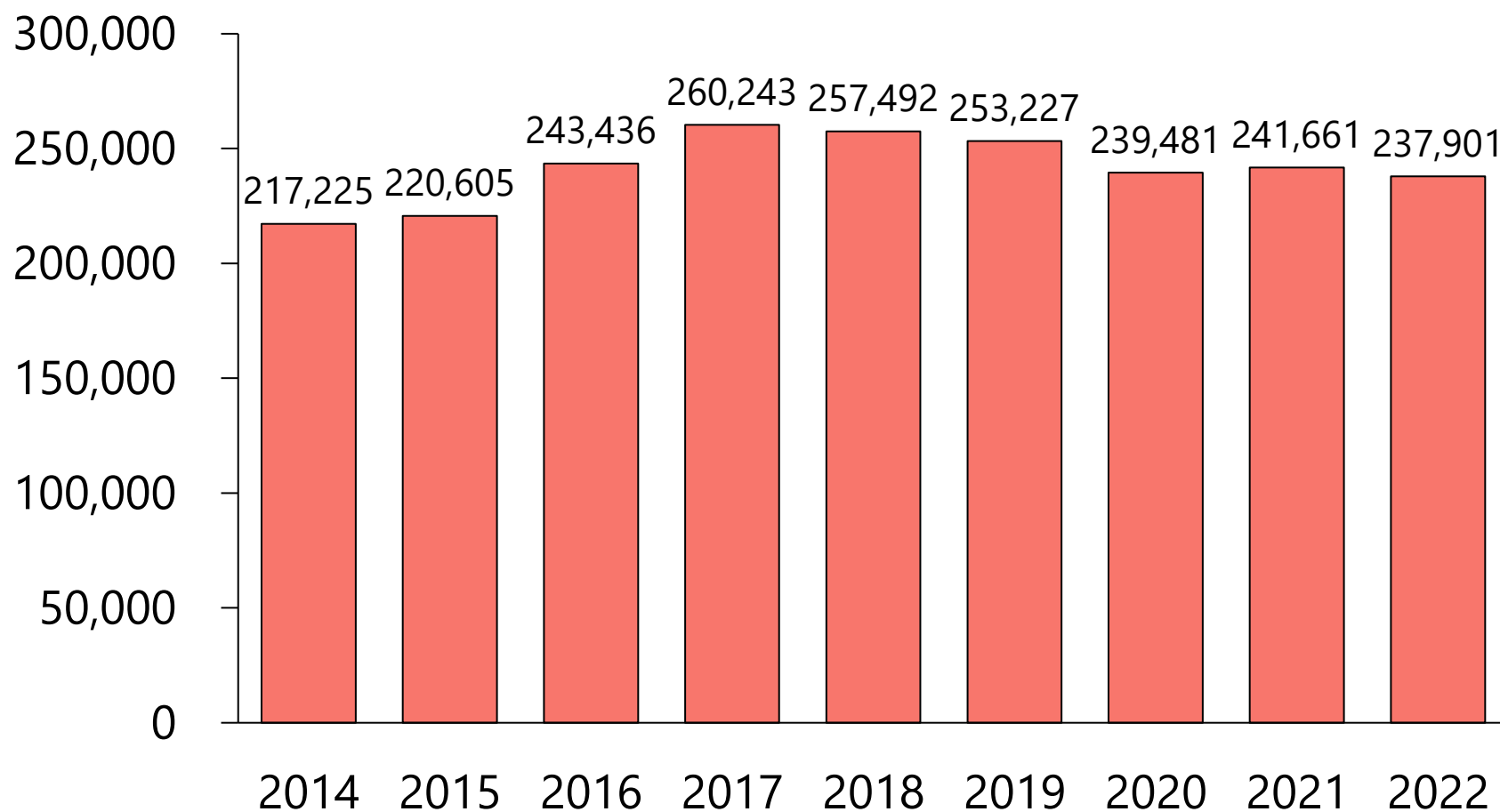
- 年間約24万件の症例が、1150施設から登録登録されており、合計1,933,370件となっています。
- 高齢化を反映し、平均年齢はさらに上昇していました。
- リスク因子として糖尿病、脂質異常症、腎不全に増加傾向がみられました。
- STEMI、NSTEMIが増加傾向であり、安定狭心症が減少傾向でした。

THANK YOU FOR YOUR ATTENTION!

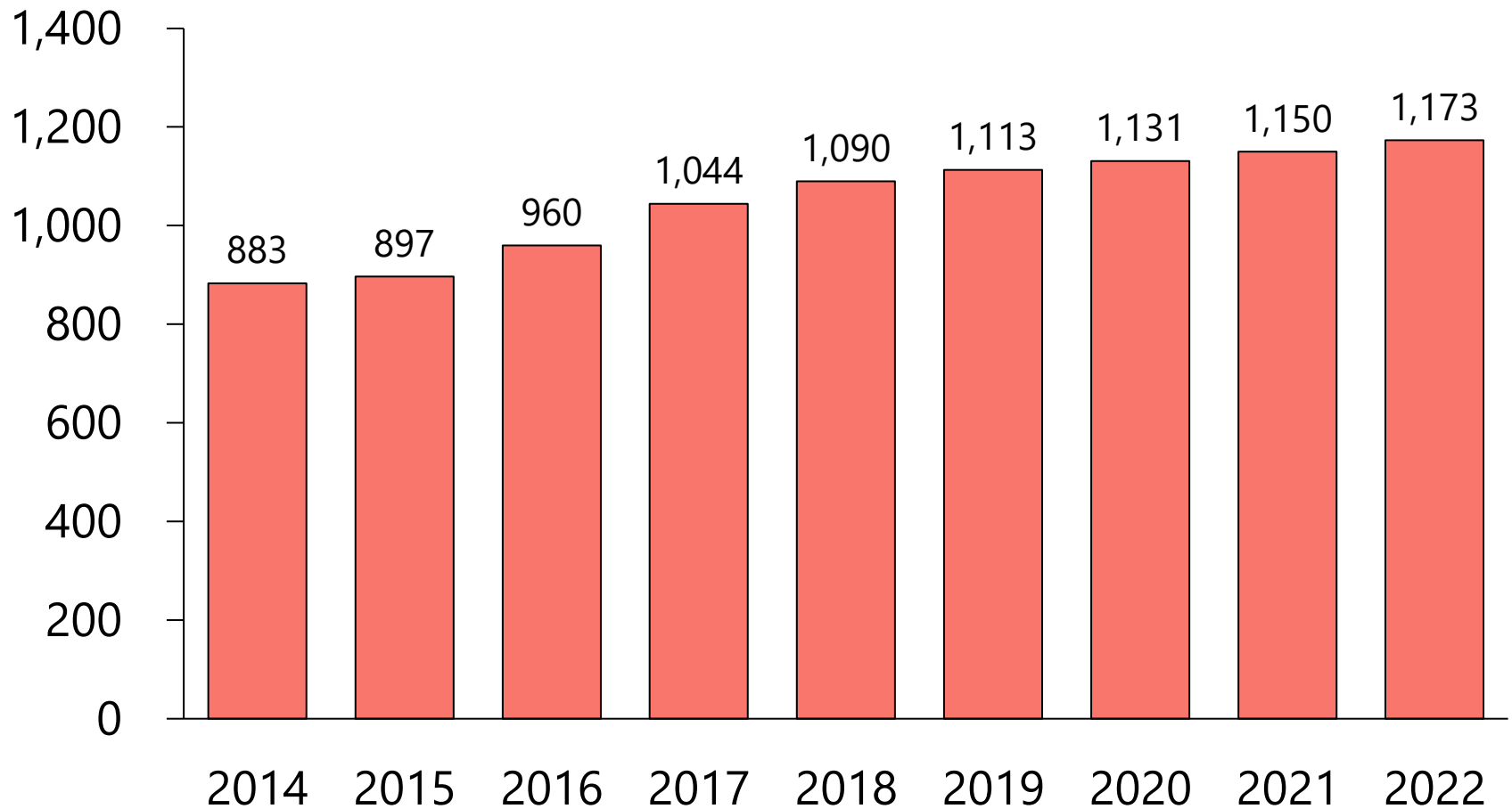
- 負荷心電図、負荷シンチは減少傾向ですが、FFRは増加傾向でした。
- 2019年は院内死亡の入力で死因などが追加され、入院中の死亡についてのデータ入力がより正確になっているようです。

J-PCI登録データ数

合計 2,171,271件



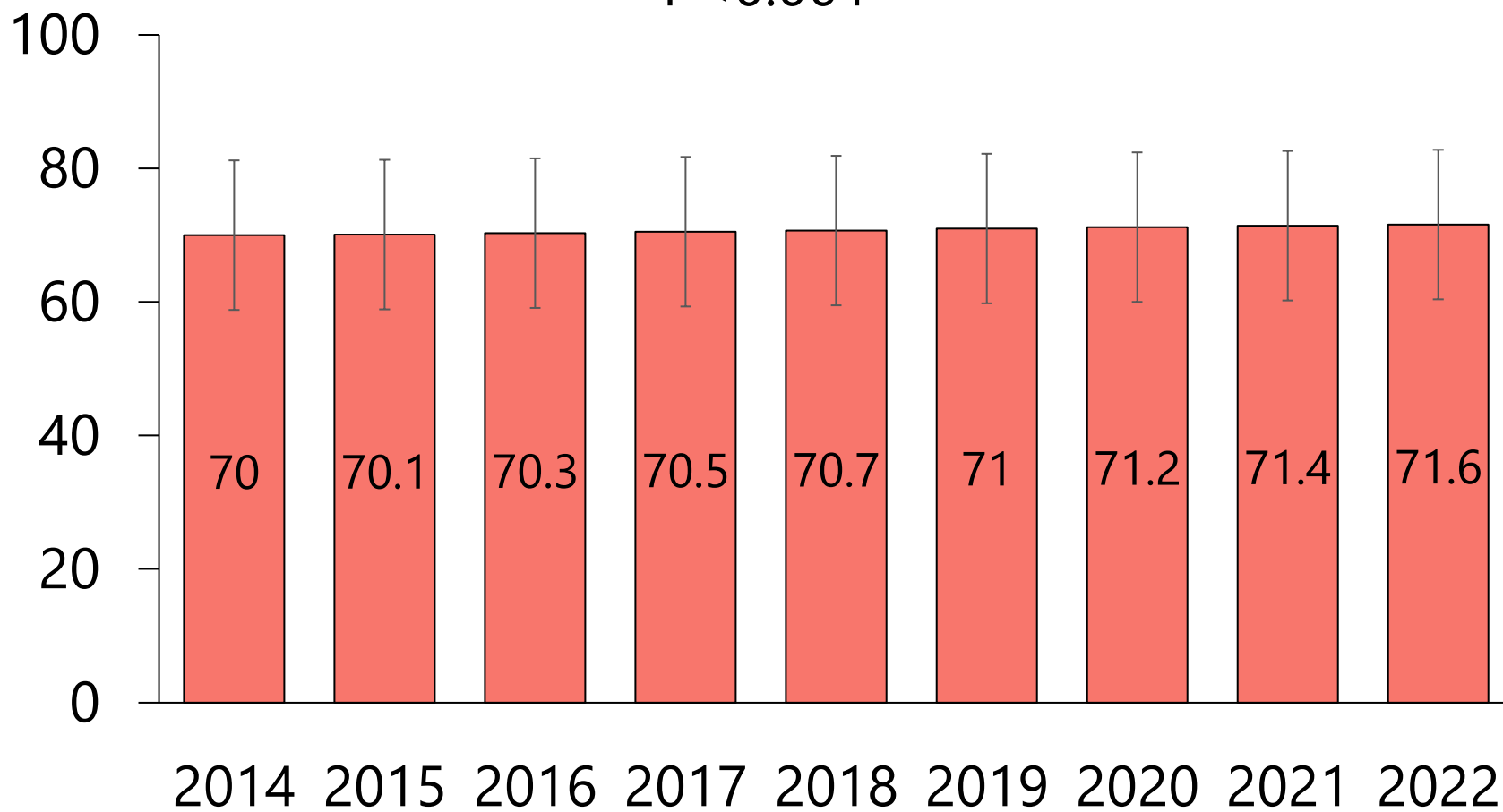
J-PCI登録施設数



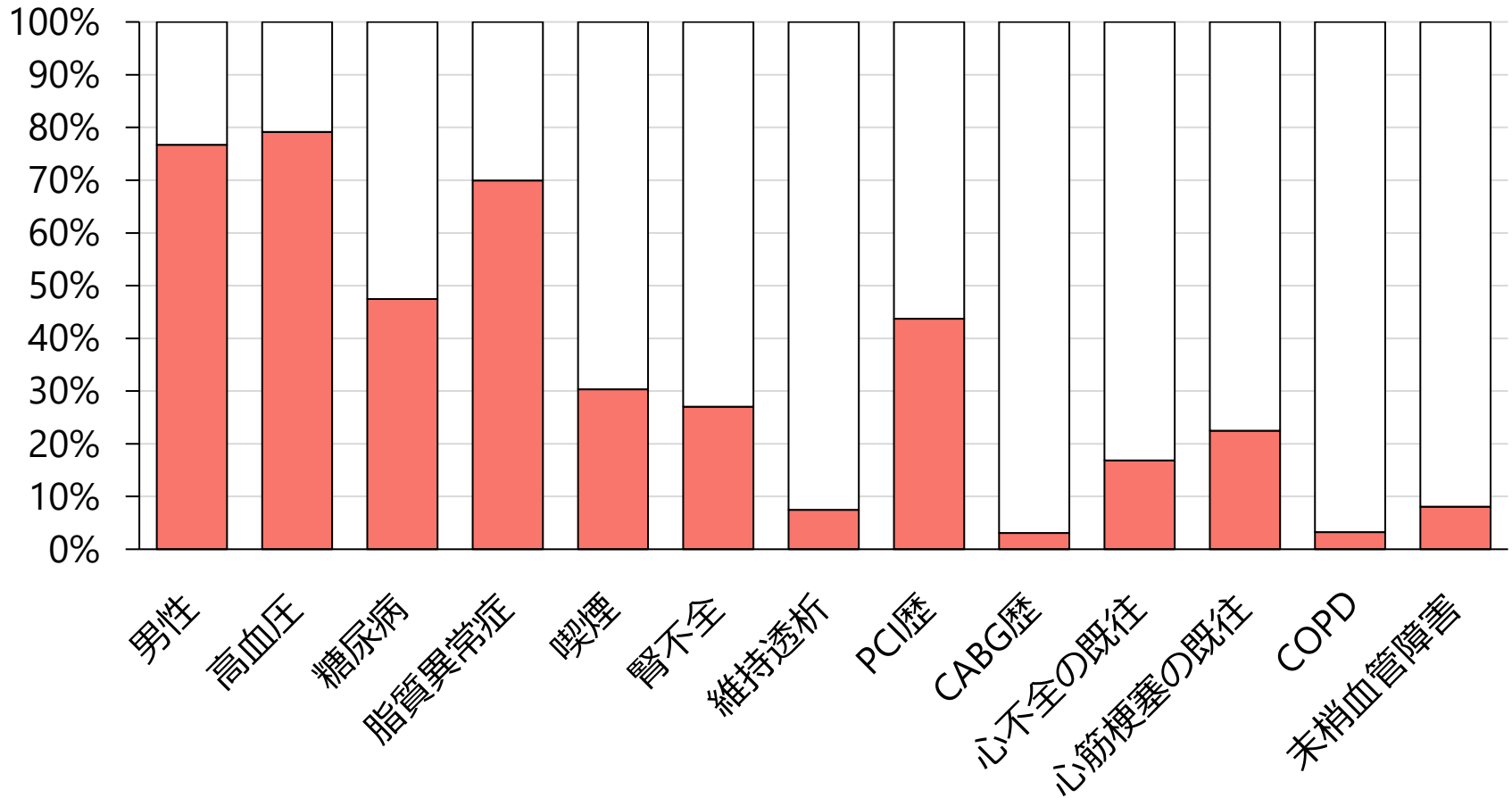
期間中に1件でも登録した施設数

平均年齢

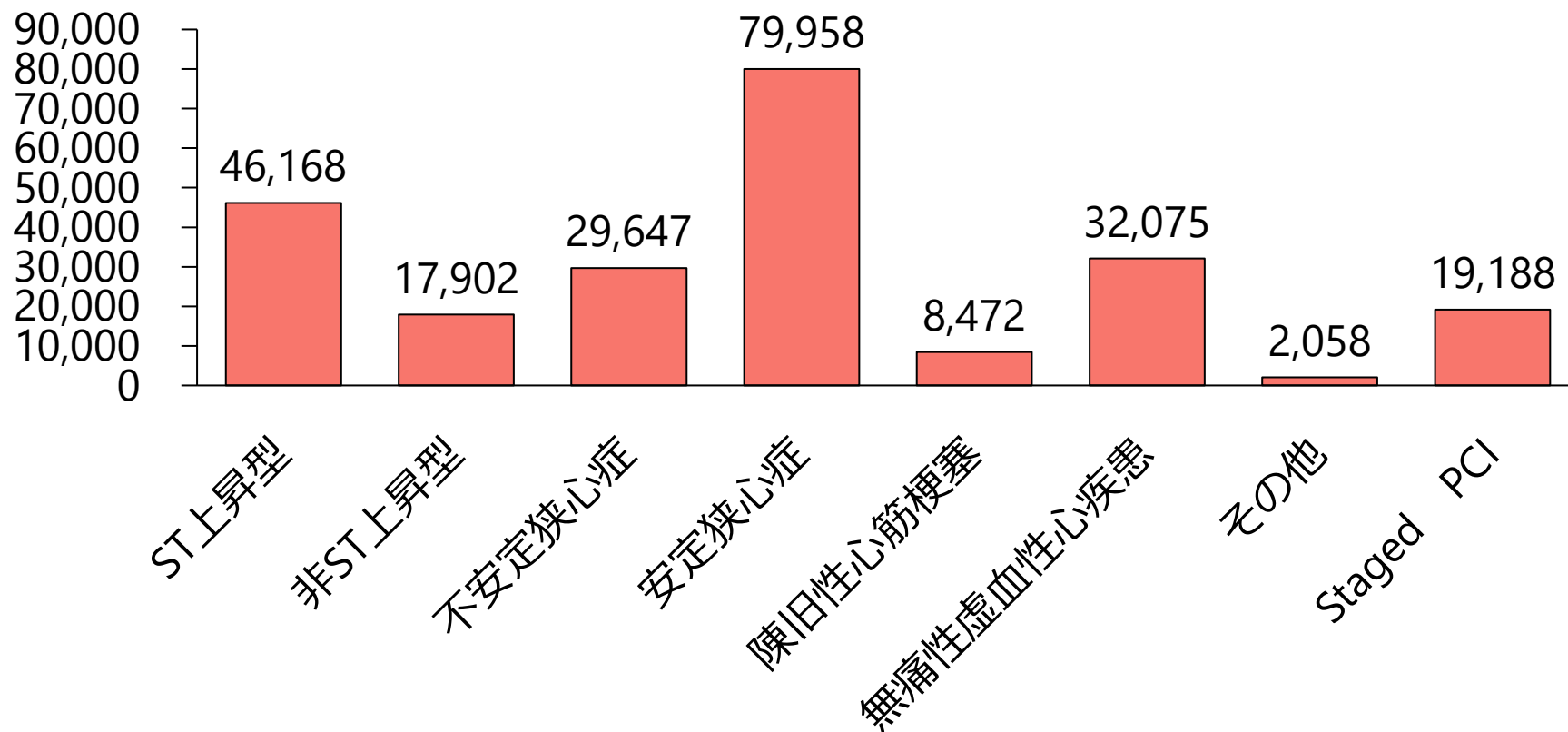
$P < 0.001$



リスク因子

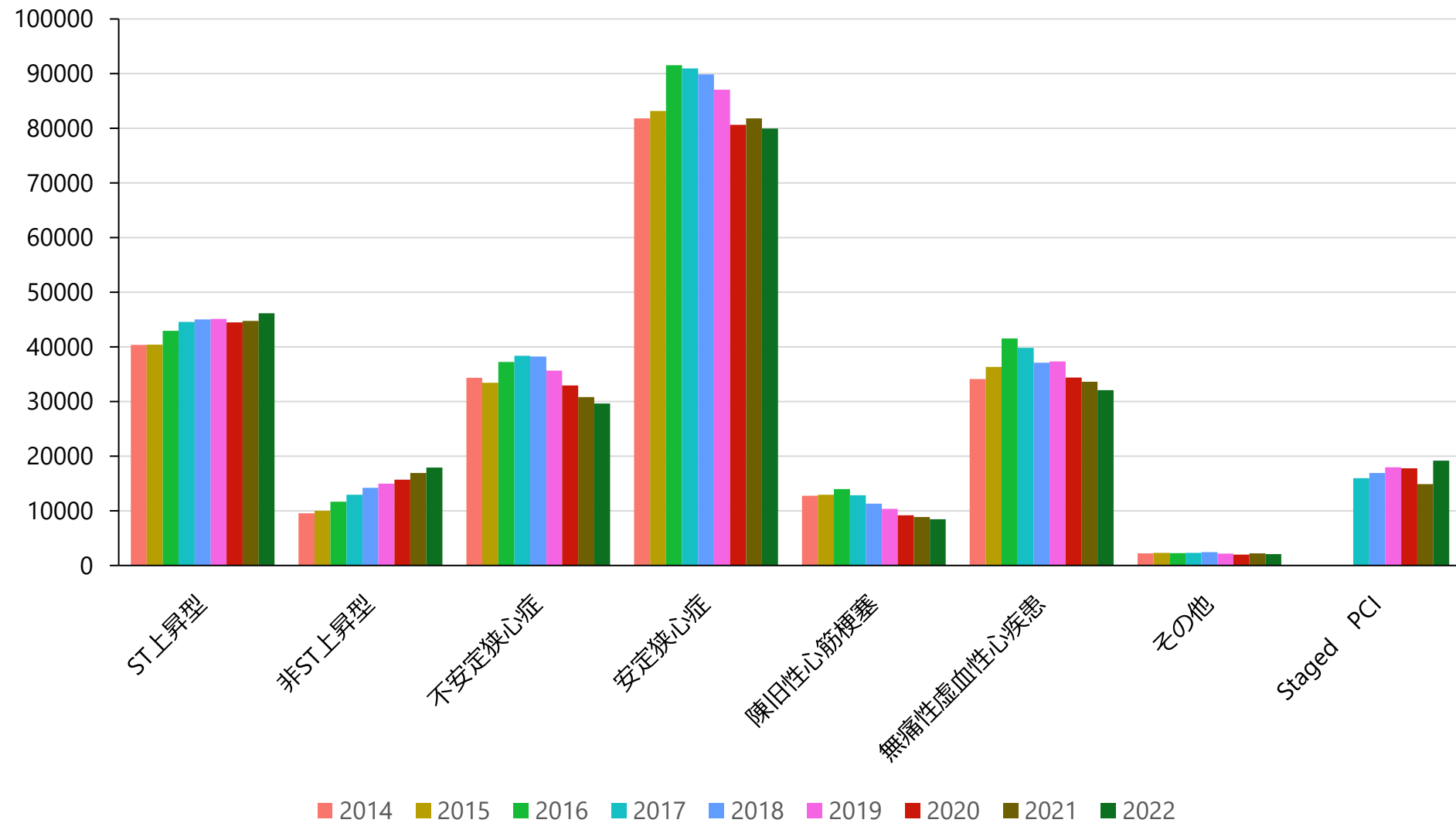


診断名

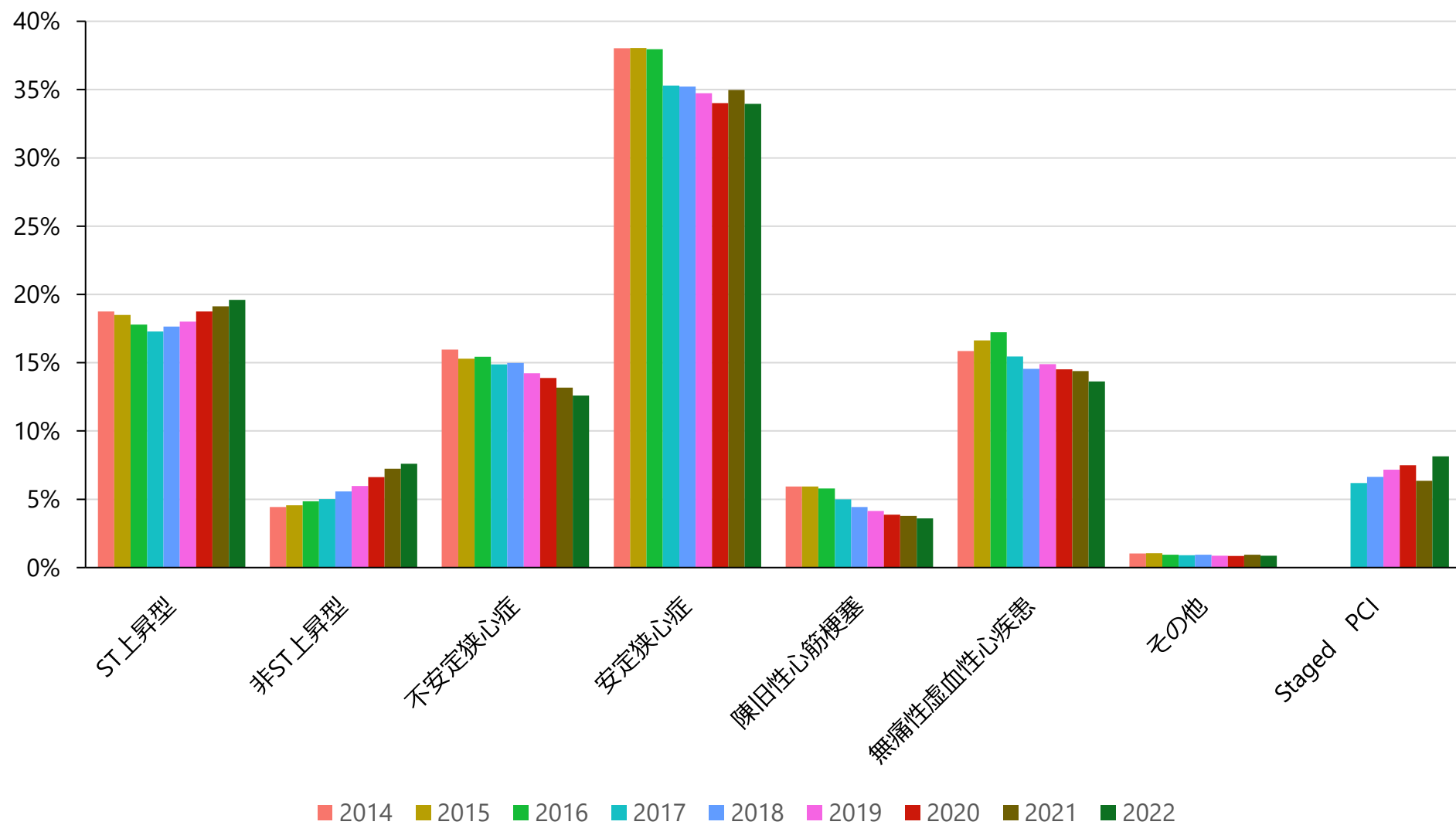


急性心筋梗塞のうちST変化不明の症例は非ST上昇型に分類

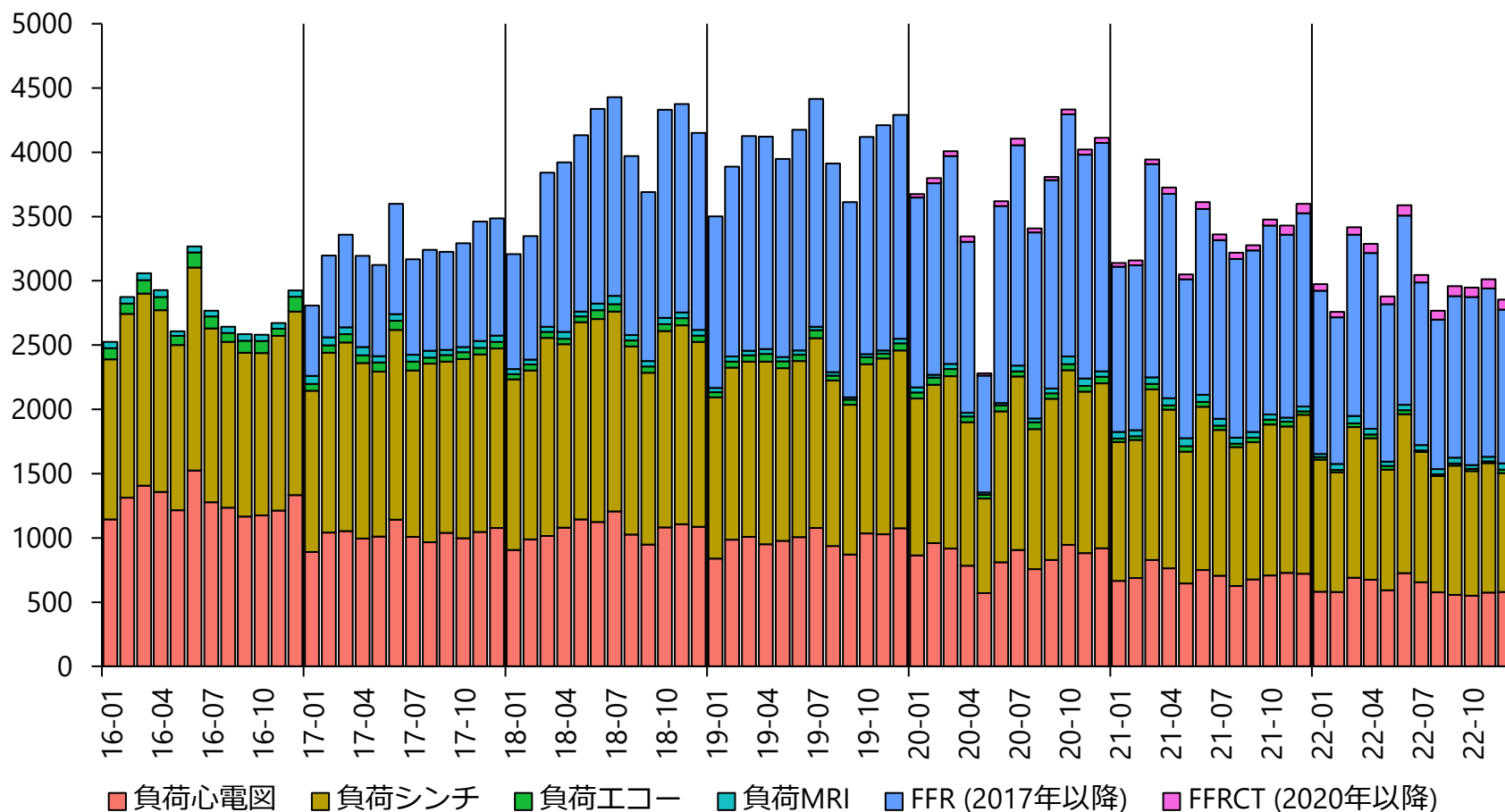
診断名 (症例数)



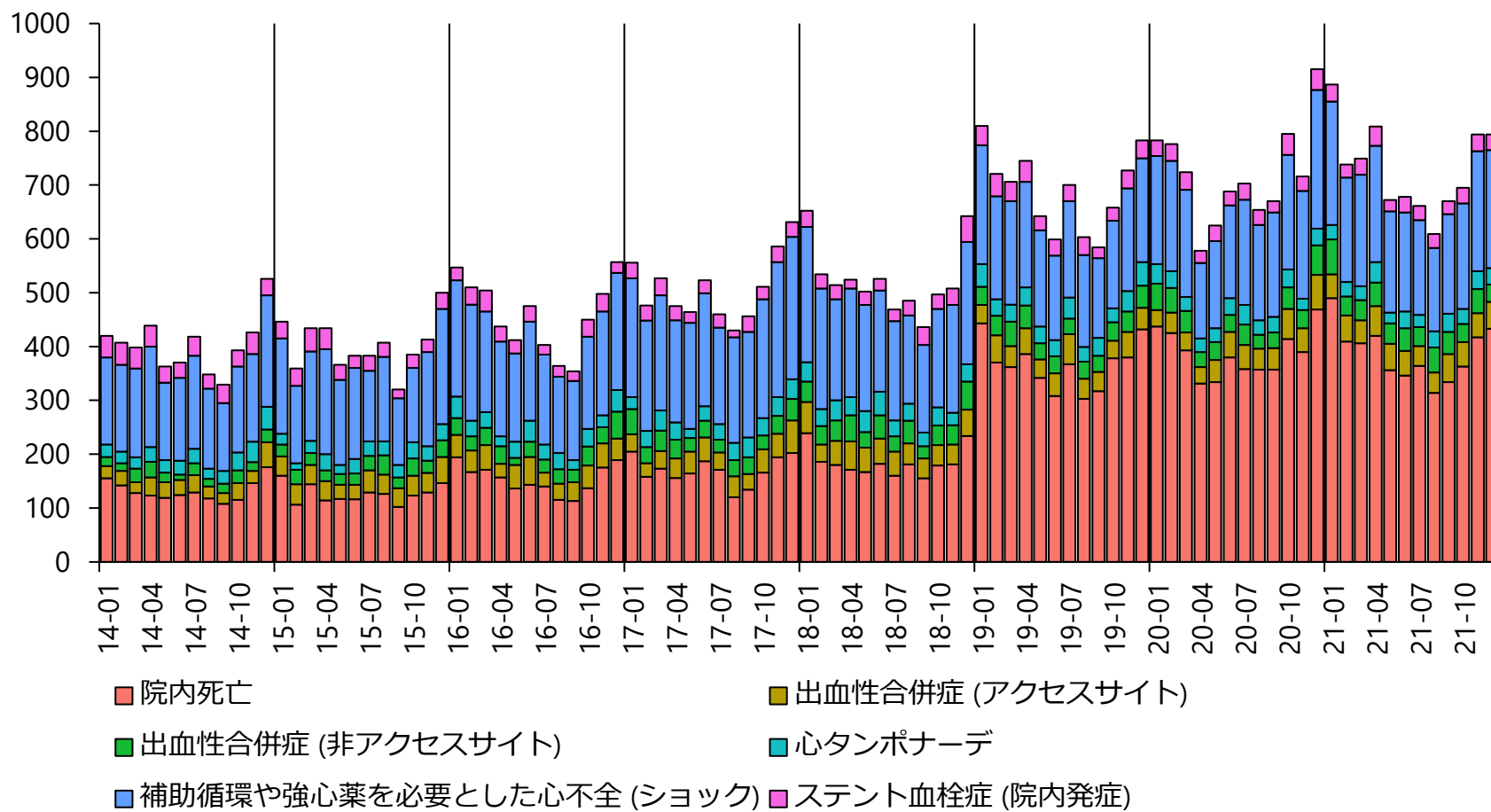
診断名 (%)



術前の画像・負荷検査の内訳



合併症



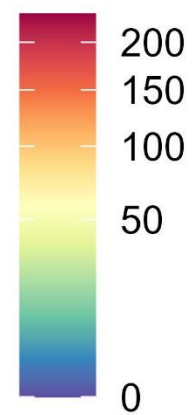
合併症

2022年 N=237,901

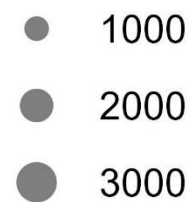
合併症	発生頻度
院内死亡	5031 (2.1%)
PCI手技による心筋梗塞	1586 (0.7%)
心タンポナーデ	346 (0.1%)
補助循環や強心薬を必要とした心不全、ショック	2291 (1.0%)
ステント血栓症 (院内発症)	328 (0.1%)
緊急手術	180 (0.08%)
輸血を必要とする出血性合併症 (アクセスサイト)	527 (0.2%)
輸血を必要とする出血性合併症 (非アクセスサイト)	415 (0.2%)
その他	1677 (0.7%)



年間ST上昇型心筋梗塞症例数

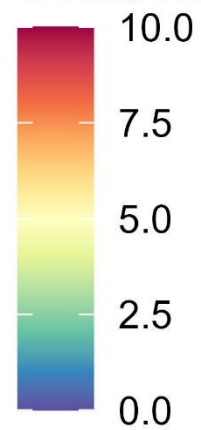


年間症例数

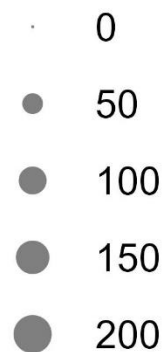




ST上昇型心筋梗塞死亡(%)



年間ST上昇型心筋梗塞症例数



CONCLUSIONS

- J-PCIには1100施設以上から年間24万件前後登録されている。
- 高齢化社会を反映し、平均年齢は上昇している。
- リスク因子としては、高血圧、脂質異常症、腎不全の増加傾向を認める一方、喫煙率は低下傾向である。
- STEMI、NSTEMIが増加傾向の一方、不安定狭心症は減少傾向である。
- 安定狭心症は横ばいの一方で、負荷検査については漸減傾向であり、特に負荷心電図、負荷シンチは減少傾向である。
- 院内死亡については、STEMIが多い冬に多くみられるが、年次にて増加傾向である。

CONCLUSIONS

- 大都市圏では、年間症例数、年間STEMI症例数の比は一定だが、地方都市では、単一施設が多くを占めている。一方でさらに地方都市ではいずれの症例数が少ないことが示唆された。
- 地方において、STEMI症例数が少なくかつSTEMI死亡率が高い可能性が示唆された。